

第9回関川流域委員会議事要旨

日時：平成 17 年 2 月 7 日(月)12:30～14:30

場所：ホテル センチュリーイカヤ

1. 概要

関川流域における“川や水に対する意識調査”に関する中間とりまとめについて、分析内容の説明及び表現方法の検討を行った。

地域住民の方々の理解がより深まるよう、さらに分かりやすい表現の工夫や流域住民への報告会等の提案が出され、了承された。

2. 関川流域における“川や水に対する意識調査”に関する中間とりまとめについて（概要版）

「4. 心理プロセス調査」について

- (1) 調査結果から、水害被害の有無や回数、地域により住民間に（考え方の）違いがあることを理解した上で、その違いを埋めるための話し合いにより、お互いに合意できる案を見つけていくことが必要である。
- (2) 環境に対しても、治水に対しても行動に移すことができないということが明確に出ているので、どのように行動に結びつける仕組みを提供するか、あるいは住民の方々と相談しながらつくっていくかということが課題である。
- (3) 保倉川では大水害が何回も繰り返し起こっているため、分流案が検討された経緯があるが、地域によって考え方が異なっている。流域委員会では、広域的な観点から研究をしているが、（住民の関心は、）さらに具体的な内容についてどのようにすべきかということである。
- (4) 上記(3)に関して、各論は反対だが、総論は賛成であるというところをよりどころにして、合意を一つ一つ図るような方策を探ろうとしているのが、流域委員会できている方策である。方向性としては、個別のことをこの段階で記載したり、議論の対象とすることはしない。

「5. 評価構造調査」について

- (5)（分析結果における）社会親水と安全評価との関連性に対して、人を川に近づける、あるいは楽しませるといった部分（親水性）と安全性を確保するという部分の関係については更に議論する必要がある。
- (6) 流域の住民の方が思っている安全というのは必ずしも水害に係わるものだけでなく、社会親水、川と触れ合えるような“安全”な川という側面も含まれている。
- (7) 安全性に関する地域的な差について、例えば保倉川下流の方が思っている安全と、関川上流の方が持っている安全とは、質が違う可能性があり、今後の解析にあたっての課題である。
- (8) 堤防、森林、棚田に関する質問に対しては、流域の位置に関係なく、それぞれ治水に役立つという評価をしているが、このことは関川固有の特徴である。
- (9) 外的環境（に関する評価）が違うのは、水質、水量、自然環境、洪水の被害経験等が異なるため、地域ごとに差が出るのは当然だが、抽象的、主観的な部分では、流域の方々は同じように考えている状況にある。（この結果は）個別のことよりも包括的なことで流域住民の合意を

得て、より具体的な議論を展開していく方が建設的であるということを示している。

- (10)(川の)安全には、治水や水害がかかわってくることは当然であるが、社会親水と言われる様々な活動が安全の評価や親しみの評価に影響を与え、さらに川が好ましい、好ましくないという(川に対する)総合評価に大きな影響を与えているという結果になっている。
- (11)(調査結果は)流域委員会で河川整備を検討する際、社会親水に力点を置いて進めると、地域住民が好ましいと感じる川にたどり着きやすく、それが強いては合意形成という形に繋がるということを示唆している。
- (12) 相関が強いということは、安全であるとか好ましいと言う風に考える人がいる一方、逆にそうでないと考える人もいるということであり、レベルの低い方をレベルアップしていかないと合意形成には結びつき難い。ここを考えていかなければならない。
- (13) 治水機能の件について、地域の方々が棚田や森林保全に高い関心があるという状況を見ると、地域全体の治水に対しては、各省庁横断的な解決策、効果的な方法で対応する必要がある。

「6. 関川流域に係わる 20 のクイズ」について

- (13) 地域性の高いものは一般的に正答率が高く、正答率が低いのはクイズの内容によって異なるという傾向にある。
- (14) 意識調査の項目には、川が冬場に行う仕事(機能)に関することがない。儀明川、青田川の機能として、冬場の雪を捨てる場所、天然のベルトコンベアであり、雪を海まで運ぶ働きをもっている。この雪国特有の知恵が表現されていない。
- (15) アンケートに協力いただいた方には、無理を言って、4つの選択肢(4点、3点、2点、1点で評価)から1つを選んでもらい、どちらでもないという選択肢は作らなかった。4点、3点は積極的、2点、1点は消極的、よって2.5点は積極的と消極的を分ける点ということである。

表現方法についての意見

- (15) アンケートの調査内容自体がかなり高度だが、(ワーキング)当初よりわかりやすい、言葉自体もわかりやすくなったと思う。
- (16) ある程度結論のようなものを先に示す方が、更にわかりやすくなると思う。
- (17) 大分わかりやすくなったと思うが、読んでいく途中で(どのようなことが書いてあるのか)頭の中から抜ける印象がある。
- (18)(まとめを見出しのようにすると)忙しい方は、見出しだけ見て、あとは想像して下さいという結果になるおそれがある。分析をみていただき、住民の方々に考えてもらうために調査結果を公表するという考えが必要である。
- (19) 中間とりまとめについて、読んだ方が引き込まれるような小見出し的な工夫、中身を読んで、ほかに参照した方がいいものがあれば追加した上で、この内容をより多くの方に理解していただくための説明会等を企画し、PRの方向性を探るという方向で進めてはどうか。

3. 流域住民への報告会について

- (1)(事務局案として)開催時期は、平成17年5月~6月(半日程度) 場所は上越市内、参加対象は、アンケートに協力いただいた自治会長を初めとして地域の一般の住民の方々を想定し

ている。内容は、地元出身等の著名人、例えば星野知子さんに講演会を依頼し、次に今回のような中間とりまとめの内容を皆さんに対して発表、公表する。その後、委員長をはじめとするパネリスト（流域委員会からは2名程度）によるパネルディスカッションという形で報告会を開催したいと考えている。

(2) このような報告会や、各地域での説明会に参加していただいた方々が徐々に核になって、合意形成を進めていく上での流域住民の意見を伝えていただきながら合議していくことができればよいと思う。

4 . その他

(1) 流域住民への報告会の前に、1、2 度ワーキンググループを開催し、具体的なプログラムやパネラーの選定について確認していきたい。